

## 令和7年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	議席 番号	氏名	要 旨	答弁者
2	13	辻 村 岳 瑠 議員	1 / 2	
発言項目				答弁者
1 医師労働時間規制における看護業務効率化のためのDX推進と介護福祉士配置の提案	<p>2024年4月からの医師の労働時間上限規制開始に伴い、看護業務の効率化がこれまで以上に求められている。しかし医療現場では、看護記録の情報共有などの間接的な業務に多くの時間が割かれ、本来集中すべき入院患者のお世話や診療の補助といった直接的なケアの時間確保が難しくなっている。加えて、近年は新人看護師の育成にこれまで以上の手厚いサポートが必要となり、指導を担当する中堅看護師の業務負担は増加している。富士宮市立病院では、さまざまな委員会活動を通じて患者の利益を考慮した働き方改革が進められており、その努力には敬意を表す。このたび、新たな市立病院の在り方が示されたことを受け、看護現場のDX推進と、市立病院における介護福祉士の配置を提案する。これにより看護業務の効率化が図られ、市民の医療満足度の向上につながると考え以下伺う。</p> <p>(1) 看護師の年代別の職員数と勤続年数について伺う。</p> <p>(2) 看護師の時間外勤務の現状と、それに対する改善の取組について伺う。</p> <p>(3) 新たな市立病院の在り方について示されたが、医療と福祉の連携の重要性を踏まえた市の考えを伺う。</p> <p>(4) 市立病院でのさまざまな委員会活動について、患者の利益を考慮した活動への敬意を表し、以下を伺う。</p> <p>① 医療現場における看護DX効果についての見解を伺う。また、厚生労働省の看護DX効果検証事業への取組状況を伺う。</p> <p>② 看護補助体制充実加算を取得するための介護福祉士配置について、市立病院の見解を伺う。介護福祉士は医療法では看護補助者の一部に位置付けられているが、身体介護の専門家として医療現場での必要性が主張されている。2024年の診療報酬改定で療養病棟入院基本料の病棟や地域包括ケア病棟で評価されるようになった。新たな市立病院の在り方が示された中で、回復期病棟のベッド数を増やしていくという計画も示された。回復期病棟においての介護福祉士の配置も含め、介護福祉士の配置について、看護師の働き方への影響も含め市立病院の見解を伺う。</p>			市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長
2 川と生きる観光施策について	<p>第5次富士宮市観光基本計画を策定するにあたり、他の自治体との差別化を図り、競合優位性を確保することが重要である。2007年の観光立国推進基本法の施行により、各自治体が観光政策に力を入れる中で、富士宮市は独自の魅力を際立たせる必要がある。特に富士山からの恩恵を受けた豊かな水資源を活用し、「川と生きる」というテーマを掲げた観光戦略を構築することが必要ではないか。これにより、他の地域とは異なるユニークな体験を提供し、観光客を引きつけることが可能だと考える。この観点から、富士宮市の新たな観光基本計画における差別化の要素について、水資源を生かした地域の魅力をさらに高めるためにどのような施策をお考えか以下伺う。</p>			市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長

## 令和7年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	議席 番号	氏名	要 旨	答弁者
2	13	辻 村 岳 瑠 議員	2 / 2	
発言項目				
			<p>(1) 日本全国で観光が活性化されている中、他地域と差別化、競合優位性を保つため観光施策の現状を伺う。</p> <p>(2) 具体的な差別化の成果と課題について。</p> <p style="padding-left: 20px;">① 差別化を図り、どのような成果を得られたのか伺う。</p> <p style="padding-left: 20px;">② それにより直面している課題に対して必要な改善点は何か伺う。</p> <p>(3) 競合優位性の確保に向けた取組について。</p> <p style="padding-left: 20px;">① どのような取組で優位性を確保できているのか伺う。</p> <p style="padding-left: 20px;">② 他地域と比較し、特に強化が必要な領域は何か伺う。</p> <p>(4) 今後の計画策定での課題認識と改善策について。</p> <p style="padding-left: 20px;">① 現行の計画から見えてきた課題を具体的にどのように認識しているのか伺う。</p> <p style="padding-left: 20px;">② 今年度の計画策定に向け、どのような改善策を考えているのか伺う。</p> <p>(5) 新たな観光施策の提案について、富士宮市は地域の観光資源を活用し、差別化を図ってきた。今後もさらなる競合優位性を確保するためには、新たな観光施策の提案が必要である。これまで市は魚釣りに対する支援を行ってきたが、新たな観光施策のテーマとして「川と生きる」を掲げ、川と人を結びつける手段として魚釣りを観光施策に取り入れることを提案する。</p> <p style="padding-left: 20px;">具体的な考え方の一つとして、従来の特定期をさらに推進していく方法がある。芝川特定区では年間約700人、潤井川特定区では300人以上の釣り客が訪れている。水産庁の水産白書によると、「釣りは従来から人気のあるレクリエーションであり、令和3年の調査では年間870万人が釣りをした」とされている。また、公益財団法人日本釣振興会の行った「釣り開放施設の経済効果調査」では堤防100mあたり3,200万円が地域経済を潤しているという報告もある。さらに、山梨県富士河口湖町では宿泊施設、コンビニ、ガソリンスタンドなどでの年間の経済波及効果が36億円に及ぶと試算している。</p> <p style="padding-left: 20px;">これらを踏まえ、地域活性化を目指し、魚釣りを中心にした宿泊型観光の推進を目指すことが考えられる。他の自治体では、魚釣りは朝早く、夜遅いことから、宿泊型観光の施策を計画している例がある。</p> <p style="padding-left: 20px;">さらに、魚釣りはキャンプとの親和性が高く「キャンプ&amp;フィッシング」という概念を導入し、キャンプ客を市内への誘引材料として活用することも可能である。富士宮市は養鱒業が盛んであることから、地域資源を活用することにもつながる。</p> <p style="padding-left: 20px;">市内を流れる芝川をはじめとした富士山の湧水が源流の川の環境は、全国の釣り愛好家から高く評価されている。川と人を魚釣りで結びつけるという観光施策は、豊かな自然を次世代に継承し、地域資源を活用して、観光客に新たな感動を創出させる三方よしの提案だと考える。</p> <p style="padding-left: 20px;">他地域との差別化を図り、競合優位性を保つための新たな観光基本計画における川と人を魚釣りで結びつける観光施策についての見解を伺う。</p>	